

平成28年度浩志会本会員活動方針  
思考力、発想力を研ぎ澄ませ～官民を超えて、世代を超えて～

代表幹事 初又且敏

「隴西の李徴は博学才穎、天宝の末年、若くして名を虎榜に連ね・・・」で始まるご存知、中島敦の山月記。極めて才能ある官僚だが、性狷介、多くの人との交流を拒み、ひたすら個人を頼み、詩作に耽る主人公が、やがて落ちぶれ、最後には虎になってしまい、人の住む場所から離れていくという変身譚である。高校時代から何度かこの小説を読み返しているが、そのたびに、人としてどうあることが幸せなのか、人であることとはどういうことなのかと問いかけられているような気がし、その時々自分を顧みる拠り所となった。

さて、浩志会である。浩志会は、昭和57年11月、浩然の志の集いの場として、また、総合的かつ国際的視野に立って日本の将来を担う官民の人材の資質向上及び相互理解の促進を図る場として、設立された会であると伺っている。

歴史と伝統ある当会に、私自身、平成24年度の活動から参加させていただいている。この間、官民を超えて、また、世代を超えて、多くの知己、友人、そして、先輩方と巡り合うことができた。また、様々な話題、課題につき、多種多様な分野の大家、専門家の方々、時には外国人の方による講演を拝聴し、意見交換する機会を頂いた。浩志会に集う仲間、先輩方との活発な、そして、自由な議論では、いつも数限りない「気付き」や「新しい視点、視座」が溢れていたように思う。多様な才能との出会いは、感性を触発され、知的好奇心を大いに膨らませる。山月記の李徴も、かくなる友人に恵まれ、環境があれば、いたずらに個人を頼み、一筋の芸術にのみ身を投じて世間を振り返らず、人の世界から立ち去ることもなかったのではなかろうか。

入会して5年目、この節目の年に本会員代表幹事の大役を仰せつかった。副代表幹事の黒澤尚さん、佐藤由理さん、そして、本会員幹事団のみなさんと力を合わせて、本会員のみなさんお一人お一人に、楽しかった、そして、参加して良かったと思っただけのような、活動となるよう、微力ながら力を尽くしてまいりたい。

ところで、わが国は、今、4年後の2020年、平成32年に、東京オリンピック、パラリンピック大会の開催を控えている。その一方で、これまで雌伏していた様々な課題、問題が表面化している。少子高齢・人口減少社会の到来、国の累積債務の拡大、エネルギー問題、国際関係、国際テロの深刻化等、数え上げれば切りがない。また、個人、家族のライフスタイルが変化し、社会が進

展する中で、多様性の受容、男女共同参画・ワークライフバランスの実現、地方創生等、そうした変化、進展に対応し得る社会システムをいかに構築するかが大きな課題となっている。

世相を反映するといわれる犯罪に目を向けても、わが国は、国内外から治安が良い、安全な国だと言われ、犯罪の認知件数も戦後最も低い水準となっているが、その一方で、様々な対策が講じられているにもかかわらず、振り込め詐欺、あるいは、ネットバンキングを悪用したサイバー犯罪等は依然として高い水準で発生している。

これらの問題・課題に共通するのは、かつての手法、思考方法に依存するだけでは、なかなか根本的な解決に結びつかないということではなかろうか。一部の官公庁、企業、まして個人の努力のみでは突破口を開けることは難しい。多くの英知を結集し、新たな思考、発想で、大胆かつ直截的に解決を図る手段を生み出すことが必要と考えられる。そうであれば、今の時代、こうした困難な問題にもひるまず、挑戦する思考力・発想力が試されているのではなかろうか。

そして、そうした問題解決につながる思考力・発想力とは、既成概念に捕らわれ、前例踏襲のみでは決して生まれることはなく、様々な経験、知見、バックボーンを持つ私たちが立場を超えて、率直に向かい合い、自由に、議論をし、気付きを得て、切磋琢磨することによってこそ初めて生み出せるのではないか。

そこで、本年度の本会員活動のテーマであるが、この課題・問題山積の時代に向き合うべく、「思考力、発想力を研ぎ澄ませ～官民を超えて、世代を超えて～」としたい。

こうしたテーマを掲げ、本年度の本会員活動にあたり、ぜひ、みなさんに以下の4つをお願いしたい。

(1) 一歩深める、極める。

一つ目は、一歩深めた議論を目指そう、ということである。前の浩志会の会長であり、元内閣官房副長官の古川貞二郎さんは、ご著書「私の履歴書」の中で、課題解消のため、牛蒡掘りの際の根回しのお話を例に、「とことんまで突き詰める」姿勢の重要性に言及されている。

～牛蒡を掘り出すために、金棒であと一押しと辛抱強く掘り下げ、慎重に根回しをする。そうするときれいに牛蒡が抜ける。～

私たちの議論も、みなさん一人ひとりの経験やお考えをもとに、みなさんであと一押ししてみると更に多様な発見、気付きがあり、そこが新たな思考や発想の源泉になり得るのではないだろうか。

(2) 健全な批判精神。

様々な経験、経歴を持つ方々の話を拝聴すると、実はそんな経緯や背景があったのかと気付かされることも多い。私たちは、議論の前提となる事実について、正確な、本当の情報に接していたのだろうかと愕然とすることすらある。

何事にも反対、異議を唱えるだけでは建設的な議論は成り立たないが、本当にそうだろうか、と、疑ってみることや、確認してみようという意欲は、真実を追求し、それを下敷きに議論をするためには不可欠だと思われる。

数か月前のことであるが、今シーズンメジャーリーグで通算3000本安打記録を達成したイチロー選手は、シーズン前のインタビューで「アウターの筋肉を大きくしても、関節を鍛えることができないからむしろ怪我の原因となる。自分の体にあったしなやかな筋肉をつけることが大切。」と語っていた。筋トレをして筋肉を大きくして体格、パワーの違うメジャーリーガーたちと渡り合う、一見、そのとおりに思う常識を疑い、突き詰め、違うアプローチで道を開く。こうした発想が稀有な才能を引き出し伸ばし、偉業を達成させたのではないかと思う。

二つ目のお願いとして、ぜひ、浩志会の活動の場においては、常識を疑う「健全な批判精神」を如何なく発揮していただきたい。

### (3) 大らかな議論、大らかな活動。

「一歩深める」、「健全な批判精神」などというと、肩肘張った議論を期待しているかのように思われるかもしれないが、一番目指したいのは、私たちの交流を通じて豊かで自由な「思考力・発想力」を「研ぎ澄ます」ことである。誰もが、先輩、後輩関係であるとか、職場の上下関係といった、いわば「しがらみ」にとらわれず、自由に議論に参加し、交流できることが何より大切だと考える。また、浩志会とは元来そうした場であると信じる。これまで研究会員として熱心な活動をされて来られた入会3年目のみなさんが新たに本会員に加わるとともに、今年は、2年に一度の本会員のグループ再編の年。ぜひ、大らかに新たな仲間を迎え、新たなつながりを作り、自由闊達な議論、交流の場を、みなさんご自身で作り上げていただきたい。

また、本会員のみなさんは、誰もが間違いなく、公私ともに人生の中で最も充実した日々を送るとともに、最も多忙な立場におられる。こうしたみなさんが「忙中有閑」、忙しさの中で時間を作り、浩志会活動に参加いただけるのも、また、これまでの本会員活動が有意義なものとなっているのも、本会員のみなさんお一人お一人がお互いの立場に対する深い、いわば同士としての理解と敬意があるからこそであると考えている。

本会員活動では、みなさんお一人お一人が、活動の運営の主体となる場合もあろうかと思われる。どうか、誰もがいつでも気兼ねなく参加できる、間口の広い活動となるよう、大らかに、本会員活動を運営していただきたい。そして、グループ活動においては、豊かな思考力、発想力で、多くの方々が参加したくなる、魅力的な企画を数多く立てていただければ大変ありがたい。

(4) 世代間交流の日常化。

最後に、OB 会員、研究会員、相互の世代間交流が日常的なものとなるよう、そうした場を作ること、また、参加することに積極的に力をお貸しいただきたい。

ご存知のように、浩志会は、現在、研究会員、本会員、OB 会員の3つのカテゴリでそれぞれ活動を行っているところ、この数年、様々な場面で、その垣根を超えた交流が行われるようになってきている。

最初に述べたとおり、より多くの方と知り合いになり、そうした方々の才気に触れることは、自分自身を豊かにする最良・最短の道だと思う。そして、OB 会員の豊富な経験と深められた思索に接すること、研究会員の旺盛な若い熱意に接することは、本会員である私たちにとって、大いなる刺激になると確信している。

だからこそ、本年のテーマに「官民を超えて」のみならず、「世代を超えて」と付けさせていただいた。

以上、平成28年度の活動開始に当たり、思い至ることをつらつらと書かせていただいた。本年も様々な活動の場で、みなさんお一人お一人とお会いすることも数多くあろうかと思う。ぜひ、みなさんのご意見を拝聴させていただきたい。私も、いや、私自身が、本会員のみなさんと共にする時間を一番楽しみにしているのかもしれない。